

理事長室から

木下 統晴



継続は素晴らしい！

本学の「NEWSLETTER」は、2021年11月5日、月刊から週刊に変わり、それから半年、毎週金曜日に大学の活動をタイムリーにお伝えできるようになりました。入試・広報課の安部さん、そしてアカデミックスキル支援センターの渡邊淳子先生、渡邊元生先生、アカデミックスキル支援センターの皆さん、大学の教職員と学生の皆さんが協力して毎週発行されています。

カラフルで明るい記事を読むのが、金曜日の楽しみです。学生の皆さんが主体となった号まで発刊されています。アカデミックスキル支援センターは、「発信力」の獲得をテーマにしています。不言実行より、有言実行、社会に出た時、自分の考えをしっかりと発信することはとても大

切なことです。メッセージをしっかりと発信するNEWSLETTERは、コミュニティを作る有力なツールになります。週刊NEWSLETTERの発刊方式は、学生の皆さんが社会に出た時、教職員の方々のコミュニケーション、また、保護者の皆さんに本学を知って頂くためにも役立ちます。「継続は力なり」の実践です。多くの人の協力を得て、そして面白くこの活動を進めてください。皆さん一人ひとりの積み重ねが、社会を変えていきます。積小為大（せきしょういだい）です。

毎週、金曜日、確実にNEWSLETTERを発行して頂いている編集者、記事を寄せて頂いている投稿者、そして読んで頂いている読者の皆様に厚く感謝申し上げます。

医療現場での業務拡大に備える

日本臨床衛生検査技師会 法改正受け講習会

医師の働き方改革の一環として、医師以外の関係職種で可能な限り業務分担を行えるように法律が改正され、臨床検査技師の業務が拡大しました。それに伴う日本臨床衛生検査技師会の厚生労働大臣指定講習会が4月24日（日）、本学で開催されました。

同日は、事前にWeb研修システムによる基礎講習を終えた60名が、静脈路確保、造影剤の注入、CGM（持続血糖測定）、採痰、直腸肛門機能検査、内視鏡および生検等の医行為について実技を中心に学びました。講師には、医師だけでなく、本学看護学科の先生にも協力いただき、非常に有意義な講習会となりました。

日本臨床衛生検査技師会は、今後5年かけて計6万人の講習会修了を想定しており、本学でも年に数回、講習会を開催する予定です。

また、現1年生の新カリキュラムでは講習会内容が教育課程に含まれており、学内実習も実施されます。

（医学検査学科・野中喜久）



講習会で、
取り組む参加者たち
喀痰採取の実技に

頑張ってます!

OB・OG訪問

患者に寄り添い信頼関係築く

本学を昨年3月に卒業した中村友紀さん(23)が、4月30日付熊本日日新聞朝刊の「小中学生新聞くまTOMO」で紹介されました。中村さんは言語聴覚士として熊本リハビリテーション病院(菊陽町)に勤務。常に「信頼関係が大事」と話しながら、多忙な毎日を過ごしています。
(渡邊元生)

言語聴覚士として奮闘中

中村 友紀さん(23)

熊本リハビリテーション病院



職場でのミーティングに臨む中村さん(中央) 熊本リハビリテーション病院

言語聴覚士になって2年目。記事によると、リハビリや食事介助など多い時には5~7人の患者を担当しているということです。忙しい中であっても、「患者さんに寄り添い、要望や思いを丁寧に聞いています」と、日々の心構えを口にしていました。

中学時代、祖母のリハビリを担当してくれた言語聴覚士の姿を目にして、その存在を知ったという中村さん。「在学中は、親身になって相談に乗ってくれる先生方や、共に同じ夢をもって頑張る友人たちと励まし合いながら乗り越えることができました」と振り返ります。

後に続く後輩たちには「在学中は専門科

目も多く、難しく感じると思いますが、臨床現場で合致して理解が深まることも多いため、在学中からしっかり勉強しておくことで役立つことも多いです」とアドバイスしてくれました。

中村さんを紹介したのは、毎月1回、小中学生を対象にさまざまな職業を紹介する「Working 私のお仕事」コーナーです。取材した熊日の西山美香記者は「患者さんのために『思い出アルバム』をつくるなど、とても熱心な仕事ぶり。自分なりにいろいろな工夫をしています。患者さんへの丁寧な接し方も印象的でした」と話していました。

新任教員

私の研究 ③

本年度、本学に赴任した教員の皆さんの研究内容を紹介します。



江上 史子
看護学科講師

効果的な認知症ケア検証

私が現在取り組んでいる研究のテーマは、デイサービスにおける認知症のBPSDを低減するケアの特徴を明らかにすることです。地域に密着するサービスの場での効果的な認知症ケアについて検証を重ね、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることにつながる支援を考えたいです。また、高度実践看護師の研究活動を支援する目的で、研究支援システムを作るための取り組みを始めたいと思っています。



吉野 拓未
看護学科講師

看護教員のジレンマ対応

看護学科基礎看護学領域に着任しました、吉野拓未と申します。

私は看護教育や看護倫理の分野で研究を行っています。看護研究分野はコロナ禍にあっますます注目されている、シミュレーションやICTをどのように看護教育に生かしていけるかといったことを研究しています。看護倫理分野では、もともと看護職であった看護教員が大学での教育時に抱くジレンマを解決できることはないかと研究を行っています。



アレンジフラワー

就職・実習支援課のカウンターに飾られているアレンジフラワー。事務室ブース前にも飾られています。株式会社三勢さんが時折、取り換えてくれているそうです。あちこちに飾られた花々が学内を華やかにしてくれています。（安部悠介）

今週の1枚



◆学生へ食料支援、再び 通算4回目となる学生への食糧支援が4月28日（木）、アリーナで実施されました。今回は「くまもと売れる米づくり推進本部」から提供された米「くまさんの輝き」（2kg）と九電工提供のパスタ（500g）合わせて100人分を1人暮らししている学生を中心に配付しました。昼休みに配付が始まると、すぐになくなる盛況ぶりでした。初めて配布を受けた医学検査学科1年の男子学生は「自炊をするので、お米をもらえるのは助かる。このような機会に感謝しています」と話していました。また、今回が2回目というリハ学科ST専攻4年の女子学生は「車もなく、4年でアルバイトをするのも難しいので、助かります。またあると助かります」と感謝の言葉とともに次回への期待も語りました。（安部悠介）

インフォメーション

週間行事予定（5月14日～20日）

5 / 15（日）

開学記念日